

第62号 「人工知能4」

前号で書いた「AI 美空ひばり」を可能にした最大の要因は、人工知能における「ディープラーニング」（深層学習）という技術です。

入力された音声から歌声を合成できるということは、知識の無い私でも何となく理解できます。しかしAIひばりは、人工知能には困難だと思われていた人の心・感情に訴える分野に挑戦していました。まさに芸術分野への挑戦です。

私はこれまで、「人の心を動かすのは生身の人間である。人工知能には人の心を動かすことはできない。それが人間と人工知能の違いだ。」と言い続けてきました。「心と心をつなぐ音楽という分野を学んできて良かった。」とも思っていました。しかしどうでしょう。AIひばりの歌声を聞いた人たちは、感動で涙を流していました。私も、語りまで入っている新曲「それから」を聞いて、心を動かされました。正直、ここまで人工知能が進化しているとは思っていませんでしたし、人工知能の「ディープラーニング」に脅威さえ感じました。

ディープラーニングとは、「人間の神経細胞（ニューロン）の仕組みを模したシステム（ニューラルネットワーク）がベースになっていて、それを多層にして用いることで、データに含まれる特徴を各層で自動的に学び、段階的により深く学習することが可能になる技術」だそうです。

私には難解な解説でしたが、NHK スペシャルを見て、美空ひばりの歌声の特徴や語っている声のデータをできるだけ多く入力し、人工知能がものすごいスピードで学習することによって、感動的な歌唱表現にまでこぎつけることができたという事実と、それがディープラーニングの技術を用いた「ボーカロイド：AI」によって行われたということは理解できました。

もちろん、美空ひばりが生きていたとしたら、歌い方などは若干異なるかもしれませんが、AIひばりは100%の完成度とは言えないでしょう。でも、技術は日進月歩です。今この瞬間にも、人工知能がディープラーニングによって新たなものを作り出しているのかもしれませんが。

この技術を用いれば、クラシック音楽における名演奏家の過去の演奏データを入力し、人工知能にディープラーニングさせることによって、当時存在していなかった現代の曲をAIに演奏させることができるようになるのかもしれませんが。

今ではまったく練習しなくなった私は、自分の過去の演奏データを引っ張り出し、自分は練習することなく「AI ゆうじ」に演奏させてみたいという邪念を抱いてしまいました。私のような人間が人工知能に支配されてしまうのでしょね。やはり私には踏み込めない世界です。これからも人間教育に邁進します。